



復刊第127号
題字 吉岡弥生

会長に就任して



会長 山崎 倫子

雲仙・普賢岳の大噴火と大規模な火砕流発生は、島原地方の住民に無惨な被害を引き起こし、いまだに治まる気配をみせていません。被災地の方々には心からお見舞いを申しあげたいと存じます。そして一刻も早くこの自然災害が治まるよう祈るばかりです。

五月二十五日行なわれた第三十六回定時総会は、本来役員改選の選挙が行なわれるはずでしたが、理事、監事とも立候補者が定員数内であったため、出席会員による選挙は行なわれず、立候補者、即理事、監事に就任いたしました。

このような総会でありましたにもかかわらず、評議員八十名、総会には二百八名と、いまだかつてないご出席をいただき感激いたしました。このたび、再度会長にご推挙いただき、改めてその任の重さを噛みし

めている毎日でございます。引き続き向後三年間最善の努力をしてまいりますので何卒よろしくご鞭達ご協力のお願ひ申し上げます。

さて、心ならずもご報告しなければならぬことは、八木貞子、久保田くら、藤井儂子先生らお三方が理事を辞退されたことでございます。大きな力が抜けて心細さを感じております。一方、多数の新理事を迎えましたので、ともに女医会を発展させていく新鮮な活力となって下さることを期待しております。

さし当って急ぎご連絡申し上げますことは、前号(復刊百二十六号)のご案内の通り、一九九二年三月八日から十四日まで、中央アメリカ、グアテマラ市において第二十二回国際女医会議が開催されることです。お申し込みは女医会本部になるべく早めにご提出下さい。グアテマラは

「永遠の春の国」といわれるほどに穏やかな気候で、南部山岳地帯も北部熱帯低地地方も、美しい風景とマヤ文化が残されているロマンたなところと聞いております。テーマは「全ての子供のための健康」、サブテーマ、ワークショップについては二頁をご参照、それに「子供の虐待」を加えて下さい。JTBおよび阪急系トラベルプロモートに企画を依頼しました。

国内的には、日本女医会の存在意義を深めるための活動と社会参加を心がけるとともに、まだ根強く残る男女差別に対しても力強くかわっていきたいと考えています。二万人をこす女医がいる現在、会員はいまだ三千人不足です。日本女医会を知ってもらい、親睦交流を深めるとともに、社会に貢献する女医会へとともに活動していきたいものです。

今年も引き続き地方支部とのコミユニケーションを深めていきたいと考えています。とくにまだお訪ねしていない支部では、お集まりをおもちの際はご案内いただければ本部より役員がお伺いさせていただきます。ご遠慮なくお申し出下さい。

また、一九九三年には東京で国際女医会西太平洋地域会議を開催いたしますが、さっそく準備に入る予定です。一九九三年は、日本女医会創立九十周年になりますので、これを記念するためにも立派に成功するよう努力しなければと思っております。女医会の発展を目ざして新執行部

もくじ

会長に就任して.....	山崎 倫子 (1)
副会長就任挨拶.....	佐藤千代子 (2)
副会長就任挨拶.....	白橋 美笑 (3)
副会長新任のご挨拶.....	野呂 幸枝 (3)
監事に就任して.....	大原 一枝 (3)
監事就任挨拶.....	土井 淑江 (3)
監事に就任して.....	本多三枝子 (4)
各部の抱負.....	
庶務部/三好 美春 (4) 会計部/青井 禮子 (4)	
学術部/橋本 葉子 (5) 渉外部/石原 幸子 (5)	
事業部/橋川ふさ子 (5) 広報部/稻生 襄 (5)	
国際連絡書記に就任して.....	野本 照子 (6)
新役員のご挨拶.....	
平敷 淳子 (6) 小田 泰子 (6) 栗原 久子 (7)	
佐々木和子 (7) 田中 蘭子 (7) 松井ひろみ (8)	
丸茂 島子 (8) 吉崎喜美子 (8)	
第二十六回日本女医会定時総会	
会長挨拶.....	山崎 倫子 (9)
定時総会議事録.....	(10)
各賞と研究助成授与	
吉岡弥生賞を受賞して.....	野本 照子 (11)
吉岡弥生賞を受賞して.....	保坂 智子 (12)
学術研究助成を授与されて.....	岡田真由美 (12)
学術研究助成をいただいで.....	山田利津子 (12)
学術研究助成をいただいで.....	山本 洋子 (13)
女医会研究助成金をいただいで.....	吉村 陽子 (14)
総会うらばなし.....	日本女医会東京都支部連合会
準備委員会 (14)	
大相撲夏場所感想記.....	弓場 光子 (15)
○第22回国際女医会のご案内 (2) ○吉岡弥生賞推選について (11) ○荻野吟子賞推選について (11) ○学術研究助成のご案内 (13) ○第14回学術講演演習研修会のご案内 (14)	
評議員会議事録.....	(16)
理事会議事録.....	(15)
会員動静.....	(18)
編集後記.....	(18)

の皆さんとともに、精一杯努力してまいりますので、よろしく指導、

副会長就任挨拶



副会長 佐藤千代子

七月三日、ウィンブルドンテニス準々決勝で女王ナブラチロワが若輩十五歳のカプリアティに敗れた。ナブラチロワ三十四歳、親子ほどもある年齢差のニューパワーとの鮮烈な新旧交代であった。カプリアティが二歳の時、ナブラチロワはウィンブルドンで初優勝をしている。その大先輩に対し堂々と挑戦するカプリアティのしははのファインプレーに、すかさず拍手を贈るナブラチロワに思わず目頭がじんこくる。戦い終えて若い勝者をたたえ肩を並べて退場するナブラチロワの顔に口惜しさはなく、年齢に直面した寂寥感が漂っていた。

競技の世界はプレイヤーの鍛錬された技と精神力、そして時に超人間の運の加勢によって勝敗が決まる。しかし頂点を極め続けた勝者も加齢による限界には如何とも抗し難い。年齢とは別であるが、「時の流れ」は社会の中あらゆる分野に影響を及ぼす非構築的力といえよう。今年、女医会は役員改選が施行され、ここにも新旧交代のウェーブがあつた。もちろん熾烈な戦いが行なわれたのではなく、競技における世代交代とはまったく趣を異にするこ

第22回国際女医会会議のご案内

期日 一九九一年八月8～14日
開催地 グアテマラ市(中央アメリカ)
Hotel Conquistador Sheraton

テーマ 全ての子供の健康
サブテーマ 一、発展途上国における乳児死亡率とその減少対策

- 一、総合的ヘルスケアサービスのモデル
- 二、子供の健康における新しい問題点
- 四、子供における薬物乱用
- 五、小児科領域の医学的研究のガイド
- 六、子供の成長発育に対する環境の影響
- 七、小児の臓器移植—提供者と受容者

ワークショップ

- 一、定年退職女医
- 二、女医に関連ある諸問題
- 三、女性、健康、発展
- ヤングフォーラム
- 公用語 英語

抄録提出 二〇〇語、一九九一年八月30日 締切

註 □頭発表は各国5題まで、ポスターによる発表の制限はなし

登録費

- 一九九一年8月30日まで
- 三五〇US\$ (会員) 一七五US\$ (同伴者)
- 一九九一年10月30日まで
- 三八五US\$ (会員) 一九〇US\$ (同伴者)
- 一九九一年10月30日以降

四〇〇US\$ (会員) 二二〇US\$ (同伴者)

旅行日程
①会議出席コース (JTB日本交通公社・阪急交通社共催)

- 旅行期間：平成4年3月7日(出)～16日(帰)10日間
- 旅 程：東京/グアテマラシティ/サンフランシスコ/東京
- 旅行代金：概算 約¥四四〇,〇〇〇
- ②会議出席とカリブ海ミニクルーズ・ティズニワールド (阪急交通社主催)
- 旅行期間：平成4年3月7日(出)～20日(帰)14日間
- 旅 程：東京/グアテマラシティ/マイアミ/ミシガン/オランダ/サンフランシスコ/東京
- 旅行代金：概算 約¥七五〇,〇〇〇

③会議出席とメキシコ遺跡の旅 (JTB日本交通公社主催)

- 旅行期間：平成4年3月7日(出)～21日(帰)15日間
- 旅 程：東京/グアテマラシティ/メリダ/チチエンイツツァン/カンクン/メキシコシティ/サンフランシスコ/東京
- 旅行代金：概算 約¥七八〇,〇〇〇
- 申し込み 日本女医会事務局へ
〒100 区渋谷一七八七青山宮野ビル
〇三二四九八〇五七一

副会長就任挨拶



副会長 白橋 美笑

このたび互選により副会長に推挙され、責任の重みを感じさせられま

明治三十五年日本女医会が発足してより長い歴史の足跡とともに諸先輩の並々ならぬご苦労の積み重ねが今日の日本女医会を支えて下さったものと深い感銘を受けました。

副会長新任のご挨拶



副会長 野呂 幸枝

このたび、五月の総会で日本女医会副会長に選出されまして、私は身の引きしまる感じがいたしております。私は永年学術部理事として女医会運営のお手伝いをいたしました、日本女医会の発展の道を見てまいりまし

た。今や私たち女医の世界のみでなく、社会的にもその存在が高く評価され、認められている時に、副会長の重責を全うすることができましかどうか、心もたなく緊張している次第でございます。山崎会長先生はじ

監事に就任して



大原 一枝

日本女医会が戦後の第一歩を踏み出した日比谷の松本楼以来、理事、常任理事、副会長として長年会務に関わってまいりましたが、今回監事就任に際して就任承諾書に捺印した時には従来に優る身のひきしまる思いを覚えました。

従来は執行部の一員として担当会務を曲りなりに遂行して来たわけですが、今回監事という立場に立つて見て、会計監査に限らず、会務全般についても広く気配りしなければと大まかなことは理解してはおりますが、さて具体的にはいかにすればよいかと改めて考えてみました。本会の定款第十七条によれば、監事は民法第五十九条に定められた職

したがって女医会のワークショップにしても学術講演会でも遠隔地からの出席は非常に少なくなりました。先般大阪総会の機会に、大阪の会員は倍の二百人を超えましたが、その後しだいに減少する傾向にあります。新入会の、とくに若い方たちの入会勧誘を促進するよう本部からの強力な手段を考えねばならないと思

場合には、日本全国から多くの参加者が、外国からのお客様を迎えられるようにしたいものです。そのためにも日本女医会に深い関心を持つ会員を増加させるような事業を執行する必要があると考え、理事会に提案したいと思っています。会員の皆様もご支援下さいませうお願いいたします。

務を行なうとあります。そこで生まれてはじめて六法全書をひらいてみました。これによりますと、「法人の財産の状況の監査、理事の業務執行の状況の監査が主な職務で、これらに不整の廉あることを発見したと

監事就任挨拶



土井 淑江

このたびはからずも監事の大役をお受け致しました。何事も経験浅く、諸先生のご指導を仰ぐばかりです。

静かに振り返れば卒業以来はや幾星霜。世の中はめまぐるしく変わりました。私も女医をとりまく状況も、



監事に就任して

本多三枝子

このたびの改選によりまして、今期新しく監事に就任致すことになりました。責任の重さに身の竦む思いでございますが、有能な先輩諸先生の驥尾に付して、誠心誠意勤めさせていただきます。

現代の科学技術の進歩と、多様化する価値観の中で、医師という共通の使命観の自覚の下に、会員がそれ

またライフスタイルもかつての日とくらぶべくもありません。しかし何時の日も時流におもねらず自己の信じた道を前進したいと願っております。

各部の抱負

庶務部

三好 美春

平成三年五月二十五日、京王プラザホテルにおいて、第三十六回日本女医会定時総会が開催されました。風薫るさわやかな季節の中、多くの会員の先生方のご参加をいただき、午後三時より評議員会、続いて総会

と盛大に行なわれました事を心から感謝申し上げます。

今までの実績を高く評価され山崎会長が再選されましたが、ただ思いのほか役員選出に時間がかかり、会員の先生方にご迷惑をおかけし、今後の問題として考えなければなりません。

六月二十二日、第一回理事会が開催され、新執行部理事の役割分担が決定いたしました。

庶務部は会長を中心に担当副会長として常に論理的で優秀でいらっし

会計部

青井 禮子

今期、会計部は、佐藤副会長のものと常任理事二村、青井、理事南雲、栗原、佐々木の五名で担当いたしました。ペテランの南雲理事、フレッシュな栗原、佐々木理事、公正、綿密、周到で経験豊かな二村常任理事、会計部二期目、自称馬力の青井という組み合わせですが、それぞれが個性を持ち寄り、団結し、部の運営に当たって行きたいと存じます。

渉外部

石原 幸子

このたび全く未知の世界というよな渉外部担当となりました。あらゆる佐藤先生をいただき、常任理事野本先生、三好、そして荒木、明石、吉崎理事が担当する事になりました。経験のあるペテランの先生が多く、大変心強く思っております。

庶務部は日本女医会の運営を円滑に推進するためのかなめとして、対外的、対内的にはもちろんのこと、公的な重要な問題から細かい事柄まで山積する仕事は多岐にわたり、常に会長を中心に担当副会長、理事が連携を密にし、各部との連絡を充分にとり、事務局と一体となって仕事をしたいかならないと思っております。

前回に引きつづき、庶務を担当する事になり、あらためて責任の重さを痛感しておりますが、今度、事務局にコンピューターを入れていただきましたし、職員の和を大切に、事務の合理化迅速をモットーに、公正で明るい会の運営を心がけてまいりたいと存じております。

新しい庶務部としての最初の仕事は名簿作成から始まります。

各支部の先生方と連携を密にし、社会的にも女医の活動を広げて行きたいとの会長先生の意向を大切に各支部総会にご出席いただきまたご講演をしていただいたりした事から、女医会への関心も高まり、毎年確実に会員の増加につながっております。事は、大変嬉しく、さらに会員増強を目的に、名簿を開き、親しい先生のお名前を見、その中から楽しい思い出があふれ、さらに連絡したいと思っております。

橋本常任理事がそのソフトをご検討中ですので、そのご指導のもと、「解り易い会計」をモットーに、今期は会計報告のグラフ化を計ってまいります。具体的な方法については次回の会誌にそのモデルを提示できるよう、ソフト作りをゆめゆめ予定しております。

会計本来の責務は、公正でかつ迅速、正確な経理処理にあるかと存じますが、それが一目で解るといふことも大切な事と存じます。事務局がコンピューターを駆使して協力してくれることを期待しています。

学術部

橋本 葉子

学術部の担当領域は、①年に一度の講演研修会とワークショップのテーマの決定、人選及び会の運営、②研究助成金授与者の選考であります。平成三年は総会でもご紹介いたしましたように、講演研修会は、「細菌性ショックと生体防御機構」というテーマで、内山竹彦東京女子医科大学教授にお願いしてありますし、ワークショップは「薬害」というテーマで五名の講師にお願いしてあります。テーマはできる限り、会員の皆様に直接関係あるものを選んでいくつもりですが、今後も皆様の「ご要望に沿ったテーマを選んで行き

たいと考えておりますので、ご意見を寄せてくださいますようお願いいたします。研究助成金は四名の研究費への授与が決定し、総会の席上で授与されました。

今期は平成五年に国際女医会第五回西太平洋地域会議を日本で開催することになっておりますので、その準備の一端を担わなければなりません。難問は会議のメインテーマの選択ですが、アピル性の高いテーマにしたいと考えております。

また学術部だけの事業ではありませんが、未開発国からの留学生援助についても考えております。種々な団体で施行されている留学生援助の資料を集め、目下検討中であり、これは一回だけではなく、永続性が要求されるので、慎重に検討を重ね、できるだけ早期に実施できるように努力する所存であります。

今期の学術部担当理事は、平敷淳子、田中蘭子、平瀬文子、橋本葉子の四名、担当副会長は野呂幸枝になりました。一同精々頑張りますので皆様の協力宜しくお願い申し上げます。

事業部

橋川 ふさ子

このたび、事業部は白橋副会長のものと、白浜、関口、丸茂、川田、橋川が担当することになりました。微力でございますが全力で頑張りますので、よろしくご協力お願い申し上げます。

まず事業部のメインでございます年金につきましては、年金の加入及び口数の増加を一段と促進いたします。前年度に続き各支部の会合のごさいます時には、できるだけ事業部も参加させていただき、年金のおすめの説明をしたいと存じます。各支部の会合のあります折にはぜひお知らせ下さいませ。

次に僻地診療への助成は今年度は東京女子医大無医地区研究会へ助成しますが、来年度からはもっと有効に活用するため再検討いたします。次に公衆衛生活動としましては、一般の方を対象とした公開講演会を各地で開催の予定でございます。これは日本女医会のPRになることと思っております。ご希望ございましたらお申し出下さいませ。

荻野吟子賞につきましては、女医の地位向上のために独自の活動を続けておられます先生方をご推選させていただきますようお願いいたします。これは評議員の推選が必要になっております。

次にルーペンダンの販売でございますが、最近新しいデザインのものも出しておりますので、すでにお持ちの方も買い換え下さいませ。

なお昨年ペンダントを作製しました。18金製で表は国際女医会のシンボルマークで裏は日本女医会としてあります。とてもエレガントなデザインですからお求め下さいませ。

次に社会保険新報社からの、「月刊いきいき」と「中高年シリーズ」の原稿依頼を引き受けました。毎月のテーマを定め、会員の中から適任者が原稿を書き協力することになりました。

以上事業部一同会員の先生方の忌憚のないご意見をお待ちしております。

渉外部

石原 幸子

このたび全く未知の世界というよな渉外部担当となりました。あらゆる

広報部

稲生 襄

このたび「広報部の抱負」などと題して書く羽目になり当惑いたしております。他会の広報はともかく、日本女医会では広報部として前期三年間勉強させていただいたばかりですので、余程頑張らないとお叱りを

前期は消費税の実施に伴う経費増があり、いかにすればその分の収入増を計れるか、経費節約はできるかという問題がありました。庶務部をはじめとする各部の協力と、会員各位の入会勧誘・会費納入推進へのご尽力により、お蔭で会費収入が予算を越えました。また事業部の年金関係の活動により、手数料収入の大幅な増収があり、事務局の経費節約の努力もあり、会費値上げという事態に到ることもなく、健全経営となりました。これは各部との連携を密にし、その協力を得られたことによるものと感謝し、今期も連携協力を目標といたしたく存じます。また経理処理に堪能な事務局と連絡を密にし、その実力を大いに発揮し得たことにも感謝しております。今後とも事務局とは一体となって行動してゆきたいと思っております。

さて、法人の活動状況はその予算書、決算書をみればわかると思いますが、経理にそれほど堪能な方か、興味をお持ちの方でなければ数字の羅列の中から読み取るのにはかなりの努力を要します。ある会員の方から、「もう少し面白くして解り易い会計報告をして欲しい」というご提言をいただきました。なるほど、現代は医学の世界でも画像診断はやり、イメージングの時代、コンピューターグラフィックスの時代です。ここ数年、当会においても事務OA化が進められ、今期はいよいよコンピューターが導入されます。学術部の

新役員のごよび

新任理事のひとりとして



平敷 淳子

二十代、医学部を卒業した当時は女医の集まりの存在すら気にかけていなかった。三代中頃、はじめて日本女医学会総会に出席させていただく機会を得た。当時の群馬女医会会長岸直枝先生のお招きを受け、群馬で開催された総会の席で特別講演の榮譽にあずかった。その日の瞬間より、私の女医会に対する認識は芽ばえ、さらに変貌した。女医の女医に對するいたわり、先輩女医の、きつと苦勞の道を歩まれたであろう方のさりげない暖かい一言、女医の歴史を築き上げて下さった先輩のこの道を絶やしてはいけないと強く感じた。昭和五十三年頃の事である。その日以来、とにかく助教のままではいけない、教授になり、発言権を持ち、女医の実力を正当に評価していける立場に立ちたいと思った。以来努力は続けている。

向調査もあるが、原点に戻り、本質から考えていかなければならない事には触れられていない。時はいつも正しい判断者」と思っている。利他的な判断をせず、安易な流れに乗らず、その場の空気に左右されない、根本を見つめた啓学で、女医会の仕事にあたりたい。女医の会。個性の強い人の集まり、それは当然であろうが、理事会の日が楽しみになるような明るい理事会の一員となりたい。明るくポジティブに物事を考えていけば、必ず良い出口は見い出せると信じている。どうぞよろしくお願いいたします。

新理事に就任して



小田 泰子

このたび伝統ある日本女医学会の理事に就任いたしました。その責任の重大さを改めて実感しております。先日、理事会に出席し、定款をも読みましてその活動が国の内外にわたる広いものであることを認識しました。役割分担として広報を担当することにいたしました。

草創期以来そうであったように頼りがいのある女医会、この会の会員であることが誇りであるような女医会が理想ではないかと私自身は考えておりますが、しばらくはじっくりと周囲の状況をみ足元を確かめて、何をすべきか、会のため會員のために何が出来るのかを見つけ、微力ながら全力を尽くしたいと考えています。

国際連絡書記に就任して

野本 照子

私は、これまで二村先生を始め、中濱・石川・青井の諸先生の協力と會計を担当して来ました。この間、佐藤副会長および庶務の白橋先生からの助言をいただき、大過なく過すことが出来ました。ところで、今期は、国際連絡書記として、これまで活躍して来られた藤井先生が理事を辞退なさいました。この事は本会にとって、かなりの痛手と存じます。そこで、会長は後任に私を指名なさいました。私にとつて、ゼロからの出発であり、責任の重大さに戸惑っております。しかし、

会長が十分補佐して下さいとの事で、お引き受けいたしました。さて、国際女医会第五回西太平洋地域会議が、一九九三年、日本で開催されることになっておりまして、近く組織委員会を設置し、開催日時会場を検討する一方、会議のメインテーマ等も検討するなど、準備に入る予定であります。會員の皆様積極的な参加を今から期待申し上げます。微力ながら、頑張つてまいりたいと存じますので、よろしくお導き下さいますようお願い申し上げます。

新役員のごよび

受け取るやも分かりません。しかし三年間同じ千葉県人のよしみで久保田くから先生にみつちり仕込んでいただき、ありがたいことに思っております。先生にはまた日本女医史追補にも心血を注がれ、ついに発刊の運びとなりました事は大変喜ばしく、すばらしい事でした。追補と申しましても初刊の部分が全部載っておりますので、誤解なきよう一人でも多くの方に読んでいただき、先人のご苦勞をしのび、その後の會員の活躍ぶりをご覧いただきたく思っております。医師会などへのご寄附もよいかと思われま。

さて会誌は限なくとは申しませんがせて題目くらいは全員の方に読んでいただきたく切望いたします。また会誌に對するご要望や各地のニーズ等おしらせいただければ幸いです。

広報部はベテランの野沢先生、小出先生がおりますので、大変心強く思っております。また中濱先生も同じ神奈川県ですでお互いに分り合え嬉しく思っております。新理事の小田先生にも若さで頑張つていただきたいものと念じております。

理事に就任して



栗原 久子

このたび加多乃会から、また理事として役員に入れていただき、光栄に存じますとともに感慨深い思いをいたしております。

と申しますのは、もう二十年も前になりましたか。若い頃、しばらく役員を仰せつかったことがありますが、あの頃と比べて規模、活動、予算等、格段と発展している今日の女医会の姿に、あらためて時代の変遷を実感し、ここまで育ててこられた諸先輩の方々のご苦勞に、敬意を表している次第でございます。先日、初めての理事会に出席して、活発な会の状況を拝見し、責任の重さを心してるところでございます。与謝野晶子さんの歌の一つに

劫初よりつくり管なむ殿堂に 吾も黄金の釘一つ打つ とありますが、大げさにいって、まさにその心境でございます。女医会は今や、社会的、国際的にも役割が大きく期待されているところですが、それに応えるためにもまず會員の増強が課題となっております。親しまれ、魅力ある女医会になるためには會員の方々に、具体的なもお役にたつ活動をすすめていくことが必要と思われま。

山崎会長の指導のもとに、微力ではございますが努力してまいりたいと存じますので宜しくご指導、ご鞭達のほどお願い申し上げます。

理事に就任して



佐々木和子

このたび、伝統ある日本女医学会に理事として関わらせていただくことになりました。その他大勢「クラス」からの我が身の激変に、未だたじろぎと不安を覚えております。

若い頃の私にとって、女医会は若干の抵抗を感じさせる存在でした。まず、周辺に非會員が未だ多く、また地方の女医全体には無関係という印象が強かったこと、それに今一つ、

女医が女医だけの集まりを持つ、これはごく自然の成り行きですが、女と来ればその対極は男です。昭和三十三年卒の私の若い頃は、建前上は男女同権、共学のチャンスも得、男を追いかけ、男に追いつけを内心の旗印に(良し悪しは別として)男の仕事ぶりを一応の基準に……、それなりの努力をしました。男女を問う前に医師として自分を受け止めて欲しいといった時期でしたから、女医、女医と自らの性を際立たせるのを不自然なことと感じたのでしよう。

しかし、努力の割には、そして使いの荒らさの割には男の添え物程度の扱い。結婚、出産と続くに従い、仕事への気概もしだいに萎えざるを得ません。残念ながら、この頃はまだ私自身、男性至上主義の亡霊を引きずっていたに違いなく、不勉強や経験の浅さと相まって、女医としてなかなか胸を張れない状態でした。三十年余を経た今、さまざまな組織の要職で、質の高い仕事を意欲的にこなす女医の方々があふえています。喜ばしくも実は当然のこの事実があ

る一方で、戦後半世紀にもならんとするのにな、未だ女医の仕事に對する評価や、処遇が不当である場合が結構多く、腹立たしさをすすりに通り越して、呆れるばかりです。ここに集団としての女医会の面目が見えて来ます。

女医ならではの集団活動を通して女医の力を、その長所を正しく素直に理解し、評価してほしいものです。最近、女医の数は、とくに地方で著しく増加中です。女医の地位向上のためには大朗報で、女医会もあるいはお私箱扱いされ兼ねませんが、それにはまだまだ時期尚早です。彼女らの協力を得、声を集めて、女医會員が全体の中の少数派として浮き上り、有名無実化しないよう、柔軟に現状に對應したいものです。私自身はまず、当会創立以来の多くの超大物先輩方が残していかれた考え方、具体的ノウハウなどを勉強させていただき、何がしかでもお役に立つ術を模索したいと存じます。何卒よろしくご指導下さいませ。

理事に就任して



田中 蘭子

埼玉県は北西部、源流を秩父連山の発する荒川が、ようやく深谷を抜けて、関東平野に流れ出る所、その

荒川のほとりの寄居町に、夫の生家の医業を継いで三十数年が過ぎようとしていきます。救急車もなく毎日が

野戦病院のような時代に、自らの未熟さをかこつひまもなく、自分なりに精一杯の事をして来たつもりでしたが、若さとは頼もしくもまた怖ろしいものと振り返ってしみじみ思う年となりま。小麦畑と田圃と桑畑の農村でしたが首都近郊のご多分に洩れず、緑が潰されて家々が立ち始め、人口は倍以上にもふくれま。純農家はほんの一握りとなり、現代日本の労働人口実態ながら患者の多くがサラリーマン家庭となり、病態もまた全国共通の様相を見せるようになりま。現在の医療は専門性が高くなるほどに細分化されていきます。大学病院での高度な医療は世界に冠たるレベルで誇り得るものとなったのは喜ばしい事ですが、わずかな設備の小さな医院で、ありふれた病気の治療をしている開業医から見ると、矛盾が多すぎる思いも隠せないのです。本来専門医は多数の一般医の存在の上で始めて十分に機能するのではないのでしょうか。今までは一般医である開業医の厚い層があったから国も教育機関である大学病院も専門医養成に力を入れて来られたのではないのでしょうか。しかし今日では、私も開業医の老齢化もあり、新規開業の若い人たちは専門科を掲げる事が多く、一般医は減少の一途を辿っています。このままでは専門医ばかりになって患者は多数の科を受診しなればならなくなりま。すでに私など交通整理よろしく、専門医向け旗

振りをする事が多くなりました。そして、それに伴って多くの情報に振り廻される患者たちの情報収集もせざるを得ない現状ですが、そのためにも日夜新しい知識の吸収に努力しなければなりません。あえて学術部の理事をお引き受けしたのは、そのような実状の中で、教育機関の専門



社会に、世界に女医のパワーを

松井ひろみ

このたび、歴史と伝統に輝く日本女医学会の理事として渉外部で活動させていただく事ができ、大変光栄です。今日まで、日本女医学会は、山崎会長、三神前会長はじめ歴代の会長を中心にして、多くの先輩の足跡をたがす事なくその目的達成のために、力強く歩んで来たと思えます。しかし、私たちは、二十一世紀を目前にして、土地の高騰、住宅問題、交通渋滞、防災への不安、教育問題、福祉社会への転換、国際化、情報化への対応や、何よりも、生命尊重の社会理念の確立など解決しなければならぬ問題を抱えています。まして、女性の社会進出が、目ざましい今日、働く女性、働く母親の労働条件の改善や、子供たちの養育の問題等、平成時代を生きる女性たちは、この大きな課題を背負って歩

える時代です。この時にこそ、女医学会は、一層の団結をはかり、会員一人一人の叡知を出し合い、さらに大きく社会に、世界に、貢献するパワー集団にすべきたと思えます。エネルギーな山崎会長を中心にして、ますます強力に有意義な、楽しい、ステキな会にしたいと思



声にならない声を大切に

丸茂 晶子

思いもかけなかった群馬県女医学会の大きな応援をうけ、理事に就任させていただく事になりました。この会員の応援は自分の責任の大きさを私に痛感させています。自分はそのような任に堪えるはずがないとのんびりしていましたので、



理事に就任して

吉崎喜美子

思いがけず理事になり驚いています。これまで埼玉県の理事をしていました。感じます事は、女医学会は楽しくリッチで(私の気持)、そして勉強になり、多くの先輩の先生方と知りあい、見識が広くなり、いい事ばかりです。きっとこれからも楽しく、人格の向上にプラスになると思っています。何もかも未熟な私ですが、少しでもひと様のお役にたてればと思っております。よろしくお願いいたします。

私は目黒区議二期、東京都議会議員四期、二十年近く地方政治に生きて来ました。その経験を生かし、日本女医学会のために、微力ではございますが努力する決意でございますので、先生方の一層のご指導を、心からお願ひ申し上げます。

な気持になり、お返事をしてしまいました。そして無投票当選ということでその立場が現実化した今、応援してくれた会員の皆様の気持、また声にならない声の中に含まれている願望、「女医学会が何故必要か、女医学会はこれからどうあるべきか」などがひしひしと私の心に迫って来ております。とくに女医学会に入っていない女医さんたちの声に大きな教示が含まれていると思われてなりません。何が私にできるかまったく未知数で、大きな事をいう資格などまったくありません。私の後にいる人たちの声を大切に原点を忘れずにと覚悟するしかありません。また新たな何が私にできるのだろうかという不安が私の心を占めています。ただただ諸先輩の先生方のお導きに従って勉強する心算です。不東不東ですが何卒よろしくご指導下さいませようお願い申し上げます。

お願い

会員名簿作成のため、住所、郵便番号、電話番号の変更、または改姓等がありましたら、九月十日までにハガキで事務局までお知らせください。なお、東京都内の電話局番につきましては、こちらで四桁に訂正いたします。 庶務部

第三十六回日本女医学会定時総会

総会挨拶

会長 山崎 倫子

本日は広く全国各地、会員多数のご出席をいただき、第三十六回定時総会を開催できましたことは誠に同慶の至りでございます。

昨年は宮城県支部長、長池博子先生はじめ支部会員皆様のご協力により、素晴らしくまた楽しい総会を仙台でお開きいただきました。つい先頃のことのように記憶に新しいところでございます。

本総会は、役員改選に伴う選挙が行なわれる三年に一度の特別な総会でありますが、今回理事立候補者二十五名、監事立候補者三名で、いずれも定款第四條第一項、理事三十名以上三十五名(うち、会長一、副会長三、常任理事若干名を含む)、同第二項、監事三名とありますように、それぞれ定数を満たしており、かつ超過しておりませんので、今回は無投票全員当選ということで、役員選挙は行なわれないうことになりました。

さて、月日の立つのは早いもので、私が会長を二期務めさせていただきました。すでに六年が経過いたしました。この間一貫して、会員の増強、社団法

人としての活発な事業の促進、本部と支部、支部と支部間の交流の強化を目標に懸命に努力してまいりました。とても十分なことはできませんでしたが、少しずつ目的に向かって進んできたように思っております。この間、こうした機会あることに先生方と率直な話し合いを通して親近感を深めたり、新しい友情を持つことができましたことを大変嬉しく思っております。本場にありがとうございました。

後ほど、重要事項である、事業及び決算書のご報告を申し上げ、さらに平成三年度の事業計画案並びに予算案についてご審議をいただくことになっておりますが、その前に若干のご報告をさせていただきます。まず、本年度の吉岡弥生賞は医学に貢献された方として、東京女子医科大学薬理学教授、野本照子先生と社会に貢献された方として、大阪枚方市にご開業の保坂智子先生のお二方に決定いたしました。野本照子先生は、昭和二十六年、東京女子医専を卒業、薬理学を専攻、とくに薬品の諸分泌臓器に及ぼ

す影響について研究をして来られました。昭和四十四年、東京女子医大の教授にご就任、以来研究にまた後輩の指導に今日に至っておられます。この間、フランス政府技術研究員として二カ年を過ごされ、後にフランス国立保健医学研究所の化学、薬理学客員教授を務められるなど、国内外の会議にも積極的に参加しておられます。この業績に対し吉岡弥生賞をお贈りする次第です。なお、先般、野本先生は東京女子医科大学の副学長にご就任なさいましたことを併せてお知らせ申し上げます。ついで、保坂智子先生は小児科医として枚方市にご開業の傍ら、働く母親にとつて最も苦慮するところの問題の一つである病児保育の重要性に注目され、昭和四十四年、全国に先駆けて病児保育室を自主開設されました。いうまでもなく、いろいろな異なる症状や疾病を持つ病児を預ることについては多くの問題もあり、格別のご苦労、ご配慮があったことと思えますが、注意深く今日まで十二年間にわたってその仕事を熱心に続けてこられましたことは、多くの有職婦人が安心して子供を托すことが出来る、いいかえれば、働く女性を励まし、その就労を支えてきたといえます。女性の社会進出はますます増えてきますが、結婚後も女性が憂いなく社会参加を続けるこ

とができる一つの救済機関として有意義であり、今後も大きな社会的役割を果たしていかうと評価し、吉岡弥生賞を贈るものであります。本年は荻野吟子賞のご推薦がなく残念ですが該当者なしということでございます。この賞は理事ならびに評議員、つまり支部長先生のご推薦下さるのが建前になっておりますのでぜひお忘れなくご推薦をお待ち申し上げます。候補者は日本女医学会員である、なしに関係ございません。次に、学術研究助成の応募者は四名ございました。それぞれの先生方が多岐にわたる、あるいは独創的な研究をなさっていただけることを審査委員会で評価され、全員の先生方に学術助成金を差し上げることになりました。独協医大の岡田真由美、聖マリアンナ大学の山田利津子、藤田学園大学の吉村陽子、浜松医大の山田洋子の四名の先生方でありました。先ほど申し上げましたように、会員増強と支部、本部間のコミュニケーションを計るため、会長、副会長、理事らがお申し出のありました支部へ出向かせていただきました。福岡、北海道、大阪支部合同、群馬、埼玉、神奈川、京都、徳島、東京都支部連合、佐賀の十カ所に伺いました。福岡、徳島支部では、公開講演会を開いていただき、それぞれ五百名を超える盛会でした。講演会という大きな行事を企画、実施下さいました福岡の加藤笠子支部長と徳島の上村家子支部長先生には格

別のご尽力をいただき感謝の念でいっぱいでございます。すでにご承知かと存じますが、福岡県支部長加藤笠子先生はこのたび日本ではじめて政令都市福岡の助役に任命されました。行政官としての業績(公衆衛生、福祉)が認められたものと、心からお祝い申し上げます。支部を訪問することによって、交流のみならず、女医学会への理解、年金事業のご紹介、入会の勧誘をさせていただき、会員の増加も著しく、将来への期待が広がっております。昨年八月、国際女医学会西太平洋地域会議がオーストラリア・ブリスベインで開催され、二十六名が参加したことはすでに会誌にご報告した通りであります。次回、第五回西太平洋地域会議を一九九三年(平成五年)日本で引き受けることになりました。西太平洋地域会議は、現在までマニラで二回、台湾とオーストラリアで各一回行なわれ、いよいよ日本の順番が廻ってきた訳であります。新年度に入り次第、早速準備にかからなければと考えております。ご協力をいただくことが多くなると存じます。また、来年三月(一九九二年)中米グアテマラで第二十二回国際女医学会が開催されます。後ほど、連絡書記よりお話がございます。先般、会誌と一緒に人材登録用紙をお送りいたしました。ぜひご記入の上ご返送下さいませようお願い申し上げます。前々から申し上げて

定時総会議事録

日時 平成3年5月25日(土)
場所 京王プラザホテル(東京都新宿区西新宿二丁目二一)

午後四時三十分開会

司会 白橋美笑

出席者への黙禱

甲子万里子、中山年子

平成二年度物故会員に黙禱

第一号議案

白紙委任数 二〇八名

一、平成二年度一般会計収支計算書

記名委任数 六五五名

配布済みの資料にもつき報告。

白紙委任数 三九五名

二、剰余金処分案

以上のおとり日本女医学会定款第二

三、次期会計へ繰り越すことを

十七条の定款に達し、総会が成立

会計監査報告

する旨の報告あり、開会を宣す。

監査の結果適法かつ正確であること

会長挨拶

とを認める旨の報告あり。

物故者への黙禱

第2号議案

平成二年度物故会員に黙禱

平成3年度事業計画案

報告

〈庶務部〉

一、会務報告および事業報告

役員選挙

配布済みの資料にもつき報告。

三、国際連絡書記報告

二、平成二年度特別会計報告

研究助成

吉岡弥生賞基金会計

ワークショップ

国際女医学会記念事業基金会計

国際女医学会第五回西太平洋地域会議の日本開催

年金会計

〈事業部〉

ルーベンゲン会計

へき地診療への助成

以上について配布済みの資料にも

公衆衛生活動

つき報告。

支部助成

三、国際連絡書記報告

萩野吟子賞

議長団選出

年金

松浦俊子、宮地民子、岸千鶴子

社会保険新報社への原稿協力

議長団、議長団席に着く

以上、承認

議事録署名人名選出

喜久、田中蘭子、南雲君代、野沢良美、平瀬文子、藤井儔子、松井ひろみ、丸茂昌子、八木貞子、吉崎喜美子、大原一枝、土井淑江、本多三枝子

以上、承認

閉会の辞

午後七時四十分閉会

議事録が正確であることを証するため議長及び議事録署名人の署名捺印。

議長 松浦俊子

議長 甲子万里子

副議長 佐藤千代子、白橋美笑、野呂幸枝

議事録署名人 甲子万里子

常任理事 青井禮子、石原幸子、稲生 襄、白浜光子、中濱昌子、二村美笑、野本照子、橋本葉子、平敷淳子、橋本葉子、平敷淳子、三好美春、森田和子、明石み代、荒木律子、小田泰子、川田喜代子、久保田くら、栗原久子、小出つる子、佐々木和

議事録署名人 中山 年子

理事 明石み代、荒木律子、小田泰子、川田喜代子、久保田くら、栗原久子、小出つる子、佐々木和

議長 甲子万里子

副会長 佐藤千代子、白橋美笑、野呂幸枝

議長 甲子万里子

常任理事 青井禮子、石原幸子、稲生 襄、白浜光子、中濱昌子、二村美笑、野本照子、橋本葉子、平敷淳子、橋本葉子、平敷淳子、三好美春、森田和子、明石み代、荒木律子、小田泰子、川田喜代子、久保田くら、栗原久子、小出つる子、佐々木和

議長 甲子万里子

理事 明石み代、荒木律子、小田泰子、川田喜代子、久保田くら、栗原久子、小出つる子、佐々木和

議長 甲子万里子

副議長 佐藤千代子、白橋美笑、野呂幸枝

議長 甲子万里子

常任理事 青井禮子、石原幸子、稲生 襄、白浜光子、中濱昌子、二村美笑、野本照子、橋本葉子、平敷淳子、橋本葉子、平敷淳子、三好美春、森田和子、明石み代、荒木律子、小田泰子、川田喜代子、久保田くら、栗原久子、小出つる子、佐々木和

議長 甲子万里子

理事 明石み代、荒木律子、小田泰子、川田喜代子、久保田くら、栗原久子、小出つる子、佐々木和

議長 甲子万里子

副会長 佐藤千代子、白橋美笑、野呂幸枝

議長 甲子万里子

常任理事 青井禮子、石原幸子、稲生 襄、白浜光子、中濱昌子、二村美笑、野本照子、橋本葉子、平敷淳子、橋本葉子、平敷淳子、三好美春、森田和子、明石み代、荒木律子、小田泰子、川田喜代子、久保田くら、栗原久子、小出つる子、佐々木和

議長 甲子万里子

理事 明石み代、荒木律子、小田泰子、川田喜代子、久保田くら、栗原久子、小出つる子、佐々木和

議長 甲子万里子

副議長 佐藤千代子、白橋美笑、野呂幸枝

議長 甲子万里子

常任理事 青井禮子、石原幸子、稲生 襄、白浜光子、中濱昌子、二村美笑、野本照子、橋本葉子、平敷淳子、橋本葉子、平敷淳子、三好美春、森田和子、明石み代、荒木律子、小田泰子、川田喜代子、久保田くら、栗原久子、小出つる子、佐々木和

議長 甲子万里子

理事 明石み代、荒木律子、小田泰子、川田喜代子、久保田くら、栗原久子、小出つる子、佐々木和

議長 甲子万里子

副議長 佐藤千代子、白橋美笑、野呂幸枝

議長 甲子万里子

常任理事 青井禮子、石原幸子、稲生 襄、白浜光子、中濱昌子、二村美笑、野本照子、橋本葉子、平敷淳子、橋本葉子、平敷淳子、三好美春、森田和子、明石み代、荒木律子、小田泰子、川田喜代子、久保田くら、栗原久子、小出つる子、佐々木和

議長 甲子万里子

理事 明石み代、荒木律子、小田泰子、川田喜代子、久保田くら、栗原久子、小出つる子、佐々木和

議長 甲子万里子

副議長 佐藤千代子、白橋美笑、野呂幸枝

議長 甲子万里子

常任理事 青井禮子、石原幸子、稲生 襄、白浜光子、中濱昌子、二村美笑、野本照子、橋本葉子、平敷淳子、橋本葉子、平敷淳子、三好美春、森田和子、明石み代、荒木律子、小田泰子、川田喜代子、久保田くら、栗原久子、小出つる子、佐々木和

議長 甲子万里子

理事 明石み代、荒木律子、小田泰子、川田喜代子、久保田くら、栗原久子、小出つる子、佐々木和

議長 甲子万里子

副議長 佐藤千代子、白橋美笑、野呂幸枝

議長 甲子万里子

常任理事 青井禮子、石原幸子、稲生 襄、白浜光子、中濱昌子、二村美笑、野本照子、橋本葉子、平敷淳子、橋本葉子、平敷淳子、三好美春、森田和子、明石み代、荒木律子、小田泰子、川田喜代子、久保田くら、栗原久子、小出つる子、佐々木和

議長 甲子万里子

理事 明石み代、荒木律子、小田泰子、川田喜代子、久保田くら、栗原久子、小出つる子、佐々木和

議長 甲子万里子

副議長 佐藤千代子、白橋美笑、野呂幸枝

議長 甲子万里子

常任理事 青井禮子、石原幸子、稲生 襄、白浜光子、中濱昌子、二村美笑、野本照子、橋本葉子、平敷淳子、橋本葉子、平敷淳子、三好美春、森田和子、明石み代、荒木律子、小田泰子、川田喜代子、久保田くら、栗原久子、小出つる子、佐々木和

議長 甲子万里子

理事 明石み代、荒木律子、小田泰子、川田喜代子、久保田くら、栗原久子、小出つる子、佐々木和

議長 甲子万里子

副議長 佐藤千代子、白橋美笑、野呂幸枝

議長 甲子万里子

常任理事 青井禮子、石原幸子、稲生 襄、白浜光子、中濱昌子、二村美笑、野本照子、橋本葉子、平敷淳子、橋本葉子、平敷淳子、三好美春、森田和子、明石み代、荒木律子、小田泰子、川田喜代子、久保田くら、栗原久子、小出つる子、佐々木和

議長 甲子万里子

理事 明石み代、荒木律子、小田泰子、川田喜代子、久保田くら、栗原久子、小出つる子、佐々木和

議長 甲子万里子

副議長 佐藤千代子、白橋美笑、野呂幸枝

議長 甲子万里子

常任理事 青井禮子、石原幸子、稲生 襄、白浜光子、中濱昌子、二村美笑、野本照子、橋本葉子、平敷淳子、橋本葉子、平敷淳子、三好美春、森田和子、明石み代、荒木律子、小田泰子、川田喜代子、久保田くら、栗原久子、小出つる子、佐々木和

議長 甲子万里子

理事 明石み代、荒木律子、小田泰子、川田喜代子、久保田くら、栗原久子、小出つる子、佐々木和

議長 甲子万里子

副議長 佐藤千代子、白橋美笑、野呂幸枝

議長 甲子万里子

常任理事 青井禮子、石原幸子、稲生 襄、白浜光子、中濱昌子、二村美笑、野本照子、橋本葉子、平敷淳子、橋本葉子、平敷淳子、三好美春、森田和子、明石み代、荒木律子、小田泰子、川田喜代子、久保田くら、栗原久子、小出つる子、佐々木和

議長 甲子万里子

理事 明石み代、荒木律子、小田泰子、川田喜代子、久保田くら、栗原久子、小出つる子、佐々木和

議長 甲子万里子

副議長 佐藤千代子、白橋美笑、野呂幸枝

議長 甲子万里子

常任理事 青井禮子、石原幸子、稲生 襄、白浜光子、中濱昌子、二村美笑、野本照子、橋本葉子、平敷淳子、橋本葉子、平敷淳子、三好美春、森田和子、明石み代、荒木律子、小田泰子、川田喜代子、久保田くら、栗原久子、小出つる子、佐々木和

議長 甲子万里子

理事 明石み代、荒木律子、小田泰子、川田喜代子、久保田くら、栗原久子、小出つる子、佐々木和

議長 甲子万里子

副議長 佐藤千代子、白橋美笑、野呂幸枝

議長 甲子万里子

機関紙の発行
以上原案どおり可決
第3号議案
平成三年度一般会計収支予算案
二村美笑江
原案どおり可決

吉岡弥生賞推せんについて
平成三年吉岡弥生賞授賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せん下さるようお願いいたします。
締め切り期日は本年十二月二十五日までに願います。
なお次の書類を添えて、ご推せんをお願いいたします。
一、自筆履歴書
二、業績
イ 医学に貢献した現会員。
ロ 社会に貢献した現会員。
三、推せん理由

荻野吟子賞推せんについて

平成三年荻野吟子賞授賞の適格者を本会理事または支部長宛にご推せん下さるようお願いいたします。
締め切り期日は、本年十二月二十五日、候補者の経歴、業績と推せん理由を記載し、推せん者の氏名、捺印をもつて提出下さい。



東女医学内支部 野本 照子

各賞と研究助成授与

これまでの総会で何度も吉岡弥生賞を授賞なさる方に接してまいりました私が、はからずもこのたび受賞させていただきました。大変感激いたしております。それにしても、東京女子医大支部長の吉田茂子先生と小暮美津子先生が推薦状を書いて下さいました。ご好意に対して、感謝申し上げますとともに、選考委員の先生方のご尽力に心から御礼を申し上げます。
私は吉岡弥生賞を真近に見ることがなかったのです。重量感のある盾を手にして、私の責任はこのように重いのだと実感し、感激を新たにいたしました。
女子医大へ戻り、さっそく、吉岡守正学長にお目かけました。学長

は、「これを拝見するのは始めてです」と、おっしゃって、弥生先生のレリーフをじっくりご覧になり、「なかなか立派なものですね、受賞おめでとうございます」と、喜んで下さいました。



吉岡弥生賞を受賞して

大阪第7支部 保坂 智子

平成三年五月二十五日は私にとって本当に忘れ得ぬ日となりました。第三十六回日本女医学会総会の席上、山崎倫子会長から栄えの吉岡弥生賞を授与された時、私の胸をよぎった感情は、小児科を専攻する女医として働く母親たちを支え励ましその子たちの病期を看とった二十二年間のこと、そして今、国がそれをとり上げ国の施策として発展させようとしている未来の働く母と子の「病児保育」についてでした。能力のある女性が仕事をしながら母親となり、あるいは働かねばならぬ母親たちが社会で責任の重い仕事をしながら保育所にあずけてあるわが子の病期の看護に苦しむのを見る時、肩をいからせて女権をいう前に、とにかく同性として支えてあげねばとの心情一途に関西の地域(枚方市)で病児保育室を開設したのでした。全国ではじめてのこと、以来延べ約三万人の保育所児のケアに尽くし、この中から医師、ナース、保母と次

これからは、弥生先生の心を帯じて女医に積極的に尽力していくよう努力してまいりたいと存じます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

學術研究助成を授与されて



栃木支部 岡田真由美

今回日本女医学会から第十一回學術研究助成金をいただきました。本当にありがとうございます。一度の申請で通るとは思ってもいせんので受理の連絡を受けた時は天にも昇る心地で、その日の夕食の準備はうわの空、口にできないような代物が食卓に並んでしまいました。助成金の対象になったのは誘発耳音響放射(OAE)の基礎研究についてです。OAEは一九七八年Kempによって報告された現象で、音刺激に対し5~10ms遅れて外耳道で記録できるエコー様の音響反応があり、それが内耳に起因する、というものでした。つまり蝸牛は音響情報単なる機械電気変換器ではなく、逆の電気機械変換も行なっているという事で、世界中に反響をよび、現在多くの施設で活発な研究が行なわれています。私が研究しているのはOAEと蝸電図CMの関係です。OAEにも蝸電図CMにも刺激音圧を低くしていくと出現する遅延反応がみと

し上げます。またご推挙下さいました大原副会長、野呂現副会長をはじめ支部会員の皆様にも心より御礼を申し上げます。終わりにのぞみましてこの賞の伝

學術研究助成をいただいで



神奈川支部 山田利津子

数年前から組織プラスミノゲンアクチベータ(TPA)に対するモノクローナル抗体を使用する機会を得ました。TPAはプラスミノゲンをプラスミンに変換する線溶系の酵素であり、血管内皮細胞から放出され

められる事に着目し、この遅延反応の起源や性質を追求し臨床に役立てる事が目的です。現在はその基礎研究としてモルモットの蝸牛から記録したCMを分析しておりますが、モルモットの毛に感作され、くしゃみや鼻水を連発しながら今日もモルモットの中耳骨胞開放にいそしんでおります。私事に到りますが、昭和五十八年に女子医大を卒業、六十年に結婚、

六十一年に第一子出産、六十二年に第二子出産いたしました。その間、何度も何度も大学をやめ、家庭に入る事を考えました。しかし、曲がりなりにもここまで続けてこられたのは、私がいかにわけても何でもなく、周囲の方々の励ましのおかげと思っております。前述の文は何やら紋切り型の常套句のようですが、私は心の底からそう思っており、血の通った文章であります。ママさんドクターとして周囲の方々から時間についての配慮や、到らなさへのお目こぼしをいただいで、仕事も家庭も不十分なままよろよろ続けてまいりましたが、こういう私をとまかくも使ってくれている医局、生かしてくれている家庭に感謝しております。以前悩んでいる私に先輩の女医さんが「low but steady」遅くたっていいから続ける事が大事よ」と言っていたのでした。これからもこれをモットーに努力していきたいと思っております。

測定にはさまざまな工夫がなされ、たとえば末梢血を採血直後に酸性化して血漿分離して保存して検定直後に中和した検体を用いたり、中間圧で五十分の駆血を行なってその反応として放出するTPA量や活性が測定されてきました。われわれがTPA測定に使用しているモノクローナル抗体は一本鎖TPAを用いて作成され、TPAの活性を阻害しない部位でTPAと結合し、一旦結合すればPAIによる阻害を受けにくい抗体です。ディップスティックに塗布した抗体を検体採取直後から一定時間検体と反応させた後、ディップスティックを洗浄し(Bioimmunoassay)法で検定します。本法を用いてまずヒト諸臓器片を磨砕し、上清中のTPA活性を測定しました。ヒト諸臓器液中にTPA活性が認められることを報告しました。また通常の駆血法を用いて健康成人の血中TPA活性を測定し、中間圧三分間の駆血ではTPA活性に影響しないこと、TPA抗原と異なりTPA活性は年齢相関しないことを報告しました。また健康成人の血中TPA活性が血清脂質値をはじめいくつかの生化学検査値の影響を受けることを報告しました。脳梗塞急性期ではTPA活性低値、慢性期では高値であることが分かりました。さらに心筋梗塞再発者は初発者よりTPA活性の上昇が悪いことが分かりました。

眼科領域では前房水中にTPA活性があり、血中TPAとは関連しないこと、白内障手術のような局所的小手術でも房水中及び血中TPAの大きな変動を認めることが分かりました。TPAの変動するいくつかの眼疾患がごさいいます。

學術研究助成をいただいで



静岡支部 山本 洋子

このたびは、日本女医学会學術研究助成をいただくことができ、まことにありがとうございます。文部省の科研費を含め、自分の研究で自分のために研究費をいただくのは初めてなので大変嬉しく存じました。これも山崎倫子会長をはじめとする会員の皆様のご厚意によるものと心より御礼申し上げます。

さて、私は浜松医大卒業後、麻酔科に大学院生として入局いたしました。その際、池田和之教授のご厚意により、生化学第一教室へ研究に出させていただき、そこで市山新教授と現在西東京理科大学教授である長谷川宏幸先生のもとで研究いたしました。当時そのグループではセロトニンの合成酵素であるトリプトファン水酸化酵素について研究しており、その関連から肺のセロトニンについて研究を始めました。成書では体内でセロトニンの多い臓器として肺も書かれておりますが、肺のセロトニンは肺固有の組織由来ではなく肺血

今回の學術研究助成授賞を契機として本分野に微力ながら足跡を残すことができたと願っております。誠に有難うございました。

管内に捕捉された血小板によること、その血小板はあるストレス下で赤血球に比し特異的に捕捉されることなどを研究いたしました。現在は家兎を用いてエンドトキシンによる肺への血小板捕捉について特に血管拡張薬の影響について研究しております。さて、先日総会及び懇親会は初めて出席させていただきました。その道何十年のベテランの先生方が大勢おられ、皆様パワフルでただひたすら会の雰囲気圧迫されております。私は浜松医大の三期生にあたり、大学ではもう古顔になってしまいました。私を(手術室では口の悪い人は私のことを「春日局」というほどです)、まだまだヒヨコだなあと感じておりました。小一と二歳の娘の育児、家事もあり、そして仕事でも十年目となって今までと違った面が要求されるようになり、ますます忙しい今日この頃ですが、これを期にまた新たな気持ちで頑張りたいと存じます。懇親会では先輩の先

第12回學術研究助成のご案内

会員の學術研究に対し助成事業を行なっております。希望者がありましたら、応募要項にしたがって、事務局あて申請下さるようお願い致します。

一、助成の趣旨
医学分野の発展向上を図り、後進の研究助成を目的とする。

二、助成金額
一件三十五万円(五件)

三、申込手続
一)応募資格
入会継続三年以上経過した日本女医学会会員で個人、またはグループ(ただし、グループ研究においては会員が研究推進の中心的役割をになうものであること)

(2)助成期間
一年を原則とする。同一人が重ねて申請する場合は、三年以上の間隔を置く。

(3)応募方法
本会所定の用紙に、黒インキまたはワープロで記入。一通を提出(用紙は事務局へ請求のこと)

(4)申込期間
平成三年十二月二十五日必着

(5)選考および発表方法
選考委員会において選考の上、平成四年三月開催の日本女医学会理事會において決定し、申請者宛通知する。

(6)助成金の贈呈
平成四年五月開催の日本女医学会総会の席上。

(7)受賞者の本会に対する義務
平成五年三月末日までに研究経過報告(B5原稿用紙三枚)と助成金使途についての簡単な収支報告を提出すること。

(8)送り先
日本女医学会本部 〒150 東京都渋谷区渋谷二一八一七
電話 〇三三四九八〇五七一



愛知支部 吉村 陽子

▼女医学会研究助成金をいただいて

生方より励ましの言葉をかけていた... 山崎倫子会長を初めとする会員の... 皆様のますますのご活躍と女医学会の...

このたびは、日本女医学会より研究助成金を頂戴し、ありがとうございます... マを大変読みにくくそうにしておられ...

第14回学術講演研修会のご案内

日時 平成3年10月12日(土) 午後3時から(予定)
場所 京王プラザホテル(東京都新宿)
講演者 内山竹彦先生
演題 細菌性ショックと生体防御機構

免疫リンパ球や食細胞の関与

学術部

総会うらばなし

東京都支部連合会 準備委員会

今年のお天気はとても気持ちよく... ございました。それなのに総会の間中...

かなか大変でしたけれど、金曜日の... 夜と日曜日の昼間を四十八席ずつお...

でも皆様がとても喜んで下さって... ご丁寧なお手紙をいただきました。

ただ一年に一度の総会ですから、... 本当の意味の会員の親睦の時間がも...

ご参加諸先生の、あたたかいご支... 援及びお心づかいがあったので事な...

る肺への血小板捕捉... についての研究

大相撲夏場所感想記

大阪第7支部 弓場 光子

私と相撲との付き合いは、巨人、大鷲、タマゴ焼と世相をわかつて... 時代から、以後春場所(大阪)...

七月三日朝日新聞夕刊「窓」に「花... 長風月」と書いてあり「長」は「鳥」...

入りも休場者がでて、揃うことなく... 淋しいかぎりです。しかし場所ごと...

理事会議事録

日時 平成3年3月23日
場所 日本女医学会 会議室

出席者 山崎、小俣、佐藤、石原、佐野、... 白橋、二村、野沢、野本、橋川、...

3月21日・愛知支部総会に山崎会... 長出席。
3月22日・ユニフェム親善大使ア...

連絡事項
(1)福岡支部長加藤笠子氏、福岡市... 助役就任。
一、東京都婦人情報センターより展...

示および講演と映画の開催につ... いて

期間 平成3年3月20日(水)
4月15日(日)

各部報告
(渉外部) 佐野常任理事
(国連婦人開発基金(ユニフェム)...

(事業部) 石原常任理事
3月17日、事業部会開催。
(学術部) 橋本常任理事

山田利津子 中心性網脈絡膜症患... 者の血中線溶系動態
山本 洋子 エンドトキシンによ...

議事

一、平成3年度事業計画案および予... 算案について

二、総会について
日時 平成3年5月25日(土)
場所 京王プラザホテル

三、第五回ワークショップについて
日時 平成3年7月20日(土)
午後2時30分～5時30分

演題および演者
(1)薬理学的基礎 藤井橋子
(2)循環器治療薬の副作用とその注...

意点 雨宮邦子

(3)てんかん治療の問題点 山磨康子

(4)膠原病およびリウマチ 星 恵子

(5)消化管疾患の治療薬による薬害 内海恵子

四、第一回回学術講演研修会について

日時 平成3年10月12日(土)

会場 京王プラザホテル

講師 内山竹彦

テーマ 細菌性ショックと生体防御機構

五、その他

(1)日本女医史について

・追補年表事項について検討し最終校正完了。

・一、〇〇〇部印刷

・販売価額は、消費税込み二、八〇〇円とする。

(2)国際女医会会費について

一、八二〇名分の会費を支払う。

(3)風土社より社会保険新報出版本発行について

月刊紙「いきいき」の原稿執筆に協力する。

(4)コンピューター購入について

事務省力化をはかりコンピューター購入の予定。

(5)第二回国際女医会会議について

期日 一九九二年3月8日(土)

開催地 グアテマラ市(中央アメリカ)

テーマ 全ての子供のための健康

抄録提出締め切り 一九九一年8月30日

登録費 一九九一年8月30日まで 三五〇US\$

一九九一年10月30日まで 三八五US\$

一九九一年10月30日以降 四二〇US\$

(6)日本ペルー協会からのコレラ基金への寄付依頼について

ペルーでのコレラ発生蔓延の事態に対し緊急支援を日本女医会および有志として寄付する。

副会長(庶務担当) 佐藤 白橋、三好、荒木、南雲、八木

庶務部

以上

理事会議事録

日時 平成3年4月20日

場所 日本女医会 会議室

出席者 山崎、大原、小俣、佐藤、石原、久保田、佐野、白橋、二村、野本、青井、橋本、藤本、丸山、尾中、柴田、白浜、関口、中濱、南雲、野呂、平瀬、八木、添田、西山、山口

欠席者 三好、石津、小出、小暮、福永、森田

庶務報告 南雲理事

3月23日・学術研究助成選考委員会、理事会開催。

3月26日・役員立候補届締め切り。理事立候補者三名、監事立候補者三名。

・国際女医会会費一、八二〇名送金(一、〇七〇、五九六円)。

・日本ペルー協会ペルーコレラ基金へ六五万円寄付。(日本ペルー協会より礼状あり)

4月1日・石川文子氏理事立候補辞退。

4月16日・尾中妙子氏理事立候補辞退。

その他

(1)福岡支部長加藤三子氏より福岡市助役就任祝電に対し礼状あり。

(2)故中原由美子先生ご遺族より供養の品あり。

承認 青井理事

承認 石川理事

承認 野呂理事

承認 藤本理事

承認 丸山理事

承認 佐藤理事

承認 野本理事

正中。石原常任理事

(事業部) 人材バンク登録用紙出来上がり。

・平成二年度年金新加入者三名、三四一口・手数料として一、〇〇〇万円を越えた。

・国際女医会 藤井国際連絡書記

・第二回国際女医会会議について

期日 一九九二年3月8日(土)

開催地 グアテマラ市(中央アメリカ)

テーマ 全ての子供のための健康

抄録提出締め切り 一九九一年8月30日

登録費 一九九一年8月30日まで 三五〇US\$

一九九一年10月30日まで 三八五US\$

一九九一年10月30日以降 四二〇US\$

旅行見積依頼業者JTB、阪急交通社、三喜

・平成二年度収支計算および平成三年度予算案について

別紙送済み資料に基づき検討し決定。

二、総会について

(1)評議員会および総会次第について別紙のとおり決定。

(2)会務報告案について別紙送済み資料を検討し決定。

(3)選挙管理委員選出について会長一任。

三、その他

(1)名誉会員について

名誉会員推薦については、継続審議とする。

(2)クルド難民への寄付について

会員より総会時に寄付を募る。

副会長(庶務担当) 佐藤 白橋、荒木、南雲、八木

庶務部

選挙管理委員長 清水五百子

選挙管理委員 大橋鎮子、加藤七五三子、関根みよ、野村多賀子

※5月25日、評議員会出席者に昼食代として五、〇〇〇円支払う。

理事会議事録

日時 平成3年6月22日

場所 日本女医会 会議室

出席者 山崎、佐藤、白橋、野呂、青井、石原、白浜、中濱、二村、野本、橋本、藤本、丸山、尾中、柴田、白浜、関口、南雲、野呂、平瀬、八木、添田、西山、山口

欠席者 三好、石津、小出、小暮、福永、森田

会長挨拶 山崎会長

・森田和子先生常任理事辞退。

・久保田くらし先生、藤井儂子先生理事辞退。

・八木貞子先生理事辞退、退会。

庶務報告 荒木理事

4月20日・会計監査および理事会

(6)エイボン女性文化センターより「エイボン女性年度賞」推薦依頼について

対象 日本国籍の女性

各賞 女性大賞、功績賞、教育賞、芸術賞、スポーツ賞

締切 5月31日

承認 二村常任理事

承認 佐藤理事

承認 野本理事

承認 藤本理事

承認 丸山理事

承認 佐藤理事

承認 野本理事

承認 藤本理事

承認 丸山理事

承認 佐藤理事

承認 野本理事

開催 5月2日・日本女医会誌一二六号

發送 13日・国際婦人年連絡会国際

ユニファム委員会に佐野常任理事出席。

14日・会務報告書、会費納入依頼、会費請求書、振込用紙、ルーペンダンパンフレット、人材バンク登録用紙、返信用封筒發送。

25日・第三六回定時評議員会

および定時総会を京王プラザホテルにおいて開催。(評議員会八〇名、総会二〇八名出席)

28日・国連NGO国内婦人委員会へ佐野理事出席。

6月3日・国際婦人年連絡会国際ユニファム委員会に佐野理事出席。

5日・雲仙、普賢岳噴火に対し松田イツ子先生(長崎支部)に見舞をする。

8日・国際婦人年連絡会全体会に佐野理事出席。

その他

(1)日本女医史追補本発刊の礼状多数あり。

(2)故大重益子先生、故最所福子先生、故横井美佐子先生、故森下うめ子先生の各ご遺族より香典の礼状あり。

(3)日本ペルー協会よりコレラ基金の募金状況について報告あり。

連絡事項

(1)労働省より第六回男女雇用機会均等推進全国会議開催について

期日 6月28日(金)

会場 中央合同庁舎第五号館講堂

(2)東京都婦人情報センターより公開講座の開催について

期日 7月20日(土)

8月31日(土)

9月28日(土)

10月19日(土)

会場 東京都婦人情報センター教室

(3)国立婦人教育会館より平成3年度公開講演会開催について

期日 9月27日(金)

11月14日(木)

11月29日(金)

1月31日(金)

会場 国立婦人教育会館講堂

(4)国立婦人教育会館より平成3年度女性学講座の開催について

期日 8月23日(金) 25日

二泊三日

会場 国立婦人教育会館

(5)第九回「市川房枝基金」応募について

課題 女性の地位向上、政治の浄化、国際協力などのための個人および団体の研究調査活動で社会に役立つものである。

対象 原則として女性であること。

金額 総額一〇〇万円

締切 8月31日

(敬称略)

理事	常任理事	副会長
吉崎、荒木、明石、三好	野本、三好	佐藤
南雲、佐々木、栗原、平瀬	青井、二村	佐藤
田中、平瀬	橋本、平敷	野呂
森田、松井、佐野、丸茂	石原	野呂
丸茂、川田、関口、小田、野沢	白浜、橋川	白橋
小出、野沢	稲生、中濱	白橋

- (1)各務部
- (2)吉岡弥生賞審査委員 山崎、佐藤、白橋、野呂、橋本、平敷、田中、平瀬、野本
- (3)学術研究助成選考委員 山崎、佐藤、白橋、野呂、橋本、平敷、大原
- (4)荻野吟子賞選考委員 山崎、佐藤、白橋、野呂、白浜、橋川、野本
- (5)年金委員 山崎、白橋、白浜、橋川、川田、関口、丸茂
- (6)国際連絡書記 野本
- 二、国際女医会第五回西太平洋地域会議について
- 国際女医会第五回西太平洋地域会議組織委員会を会長、副会長、常任理事で新設し日時、会場、テーマ等を今後検討する。
- 三、地域保健研究会への助成について
- 東京女子医科大学地域保健研究会へ二〇万円補助。
- 四、名誉会員制度について
- 名誉会員制度について庶務部で検討する。
- 五、会員名簿発行について
- 会員へ無償配布。広告料一ページ五万円。庶務部で検討する。
- 六、その他
- (1)理事会および常任理事会開催日別紙とあり。
- (2)日本女医史追加印刷について
- 一〇〇冊追加印刷。

- (3)平成3年度総会について
- 日時 平成4年5月23日(土) 24日(日)
- 場所 香川県坂出市 5月23日(土) 観光、評議員懇談会
- 5月24日(日) 評議員会、総会、懇親会
- 香川支部へ希望日程として連絡する。
- (4)クルド難民への寄付依頼について
- 三七、五〇〇円募金あり
- (5)第五回ワークショップ開催
- 日時 平成3年7月20日(土)
- 場所 東京女子医科大学 臨牀講堂(2)
- 司会者 野呂副会長
- 閉会 平敷常任理事
- (6)職員夏期手当について
- 二・三ヵ月分

評議員会議事録

日時 平成3年5月25日(土)

場所 京王プラザホテル(東京都新宿区西新宿2-2-1)

午後三時六分開会

司会 三好美春

社団法人日本女医会評議員会開会に際し

評議員数 一一九名

出席数 八〇名

記名委任数 一〇名

白紙委任数 八名

以上のとおり日本女医学会定款第二七条の定足数に達し、評議員会が成立する旨の報告あり開会を宣す。

オブザーバーとして岩手支部より水野綾子氏の出席を承認する。

会長挨拶 山崎倫子

報告 一、会務および事業報告 南雲君代 配布済みの資料にもとづき報告

二、平成2年度特別会計報告 石川文子

吉岡弥生賞基金会計 国際女医学会記念事業基金会計 年金会計

ルーペンタン会計 以上について配布済みの資料にもとづき報告。

議長選出 齊藤歌子

議事録署名人名選出 井上柳子、荷見ヒサ子

議事録署名人名選出 井上柳子、荷見ヒサ子

議事録署名人名選出 井上柳子、荷見ヒサ子

議事録署名人名選出 井上柳子、荷見ヒサ子

議事録署名人名選出 井上柳子、荷見ヒサ子

議事録署名人名選出 井上柳子、荷見ヒサ子

議事録署名人名選出 井上柳子、荷見ヒサ子

議事録署名人名選出 井上柳子、荷見ヒサ子

とを認める旨の報告あり。

第2号議案

平成3年度事業計画案

(庶務部) 八木貞子

会員増加推進

役員選挙

会員名簿作成

橋本葉子

(學術部)

講演研修会

研究助成

ワークショップ

国際女医学会第五回西太平洋地域会議の日本開催

白浜光子

(事業部)

へき地診療への助成

公衆衛生活動

支部助成

荻野吟子賞

年金

ルーペンタン

社会保険新報社への原稿協力

について

(渉外部)

国内および国際交流

第二二回国際女医学会会議への参加

小暮美津子

(広報部)

機関紙の発行

以上原案どおり可決

第3号議案

平成3年度一般会計収支予算案

中濱昌子

第4号議案

次期総会開催について

山崎倫子

閉会を宣す。午後四時二分閉会

議事録が正確であることを証する

ため議長及び議事録署名人名の署名捺印。

平成三年五月二十五日

議長 長 齊藤 歌子

議事録署名人名 井上 柳子

議事録署名人名 荷見ヒサ子

会員動静

評議員(敬称略)

新宿支部 竹下寿子

目黒支部 安田洋子

岡山支部 平 恭子

香川支部 松浦俊子

予備評議員(敬称略)

青森支部 花田チヅ

宮城支部 清水洋子

目黒支部 中野敏江

岡山支部 小林豊可

入会会員(敬称略)

宮城支部 今泉栄子 桂島教子

福島支部 井上千恵子

群馬支部 福田由美子

埼玉支部 後藤敬子 正田房子

千葉支部 堀越素子

西原潔子

新藤節子 高橋久子

野平陸子

大田支部 緒方美佐子

北支部 大木田勝子 中田 澄

渋谷支部 大田由己子

新宿支部 磯貝祐貴子 竹下寿子

中西克枝

杉並支部 浅賀まき子

百瀬せつ子

豊島支部 香川芳子 篠崎百合子

中野支部 岡本弘子 荷見圭子

練馬支部 田島かほる

東女医学内支部 雨宮邦子

都下東支部 松本めぐみ

都下西支部 池田公子

神奈川支部 亀井淳子 星 恵子

静岡支部 鈴木恵美子

山本登美子

大阪二支部 沢井貞子

大阪六支部 杉岡操子

大阪七支部 阪口昌子

大阪八支部 大西勝子

大阪九支部 米田桂子

大阪十支部 藤林敏子

京都支部 中嶋典子

滋賀支部 山元真理子

高知支部 弘瀬かほり

町田照代

鹿児島支部 山内美貴子

物故者(敬称略)

都下東支部 吉田実子

神奈川支部 坂寄八枝

山梨支部 秋山貞子

静岡支部 長谷川浜治

森下うめ子

石川支部 横井美佐子

兵庫支部 津司豊子

山口支部 最所福子

香川支部 佃 千鶴子

愛媛支部 中原由美子

高知支部 荒瀬諄子

鹿児島支部 大重益子

集記 編後

七月二十一日の梅雨あけ後、東京では真夏日が八日も連続しておりますが、皆様ごきげんいかがですか。

湾岸戦争も終結し中東和平会議が開かれんとし、七月のロンドンサミットでは会議後ソ連も加わるといいうように世界は激しく動いております。

このような時日本女医学会も総会で無選挙でしたものの新役員が揃い、はじめての会誌発行を迎えました。

三期目の会長はじめ各役員の挨拶、抱負、東京総会の記事等々、多彩で読みがいのある号となりました。ご

多忙中を深謝申し上げます。今後とも各方面からのご寄稿を期待し、親しんで頂ける会誌づくりに部員一同専心致すつもりですのでよろしくお願ひ致します。 稲生

平成3年8月20日 印刷
平成3年8月25日 発行
編集人 稲 生 襄
発行人 日 本 女 医 会
発行所 東京都渋谷区渋谷2-1-8 17 青山宮野ビル
社団法人 日本女医学会
電話 三四九八-〇五七一
制作 東京都文京区水道1-5-16 株式会社 金剛出版